

# 証券市場新聞

1 第155号

日経平均株価

2万1680円34銭

▼123円28銭(前日比)

TOPIX

1629.30

▼9.67(前日比)

2018  
11/19  
月曜日

発行元 ココ・パートナーズ株式会社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



## 2Q上ブレ銘柄再度狙う

### 自動車、ゲーム、インバウンドなど

3月期決算企業の第2四半期(4~9月)が発表が一巡した。大手調査機関によれば主要上場企業の経常増益率は会社側の事前予想を大幅に上回ったが、10月の国内外の暴落相場の余韻や米中間選挙前の手控え気分などの外部要因で、期待通りに株価が反応しなかった銘柄も多い。ただ、過去のデータでは中間選挙後のパフォーマンスは良い傾向にあることから、全般が落ち着きを取り戻すなかで、好決算銘柄が改めて見直される可能性が高いだろう。

### 増益率事前予想を上回る

転じて  
いる企  
業の声



今回の第2四半期「争による中国経済への影響を懸念する企業が多が見られたが、それでもその懸念を払拭する上方修正を打ち出す企業が散見された。半導体絡むセクターについても設備投資は10月から再び増加に

#### 上方修正銘柄を再点検

も聞かれており、体的にはポジティブな内容だったといえそう。為替についても10月26日の11円36銭から直近では11円4円を付けており、輸出系には為替面での不安はないだろう。  
主要企業の上方修正ではトヨタ自動車(7203)やホンダ(7267)、スズキ(7269)が

自動車セクターの筆頭。円安効果もあるが、スズキはインドでの販売台数を増額しており、米中以外へ活路を見出しているのは評価したい。半導体などの絡みでは信越化学工業(4063)やTDK(6762)、アドバンテスト(685

7)、ローム(6963)の上方修正も改めて注目できるだろう。  
ソニー(6758)はPS4のオンラインゲームなどが好調だった。ゲーム業界は中国向けの動向が懸念材料としてされていたが、その影響は皆無で、今回は通期予想を据え置いたカプコン(9697)を含めて上振れ期待がある。加えて災害で7~9月は苦戦したインバウンド関連は回復から見直しが進みそう。

日経平均日足チャート



今週の動意銘柄

# JBR値上りトップ

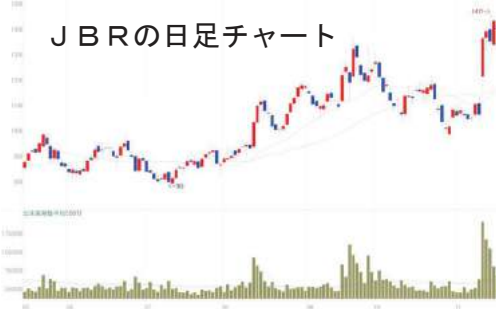
## 2ケタ超の増益見込み連続増配

週明け12日、ジャパンベストレスキューシステム(245)が東証全市場で値上がり率トップに立った。18年9月期の連結決算は営業利益14億3000万円(前の期比60%増)と利益が急増、19年9月期も16億5000万円

(前期比15.3%増)と2ケタ超の増益を見込んだことを好感した買いを集めた。インターネットを通じて集客力の強化により、駆けつけ事業が拡大。年間配当は前期の11円(前の期9円)に続き、今期も14円へ連続増配を予定する。

### 三井金予想上回る減額

12日、三井金属鉱業(5706)が大幅続落、2カ月ぶりに年初来安値を更新した。19年3月期の連結業績予想を大幅に引き下げたことを嫌気した売りがかさんだ。売上高を5220億円から5067億円(前期比2.4%減)、営業利益を440億円から245億円(同50.5%減)へ。キ



## ソフトバンクGプラス浮上

13日、ソフトバンクグループ(9984)が売り一巡後にプラスに浮上した。全般の地合い悪から指数構成銘柄に絡む売りを浴びていたが、12月19日に子会社で通信事業を手掛けるソフトバンク(9434)上場が決定したことから、これに絡む期待から押し目買いが入った。通信料金の値下げ圧力が強い中での上場だけに、子会社の上場に関しては賛

### TATERUストップ安

否両論があるようだ。13日、TATERU(1435)がストップ安。18年12月期の連結業績予想について、営業利益を71億1300万円から30億6000万円(前期比48.1%減)へ下方修正した。預金残高データ改ざん問題に絡んで受注取消しや工事進捗悪化による引渡遅延が発生している。

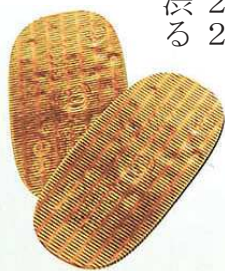
## キャリインデはS高

14日、キャリインデックス(6538)がストップ高。19年3月期第2四半期累計の単独結決算は、営業利益4億5600万円(前年同期比28.2%増)と大幅増益で着地したこと買い手掛かりになった。予約型広告から運用型広告へのシフトが進んだことでユーザー利用端末のモバイル化が進み、インター

## 正直いいさんの株で大判小判

16日の東京市場は小動きで推移しました。15日のNYダウは200ドル超高で引けましたが、引け後に発表されたエヌビディアやアプライドマテリアルズが時間外取引で下落し、国内半導体関連株にも売りが広がったことが影響しました。部環境は不な状況下でプットの値おり、下値す。アップ業の決算後思っています。売り叩かれた銘を見極めて物色強い銘柄を見極める

銘柄ではアイロムG(2372)などが堅調で注目です。 花咲翁



### 平田機工下方修正

14日、平田機工(6258)が大幅続落。19年3月期の連結業績予想について売上高を950億円から830億円(前期比11.9%減)、営業利益を65億円から52億円(同44.5%減)へ下方修正した。燃料電池車向けの設備をはじめ大型の設備投資計画が延期、有機EL蒸着装置の設備投資も先送りとなった。

# ～決算情報～

## イトアンド

### 新商品投入効果など表面化

#### 第2四半期は10.5%営業増益

イトアンド(2882)の19年3月期の第2四半期累計(4～9月)連結決算は売上高141億7900万円(前年同期比4.9%増)、営業利益は4億6200万円(同10.5%増)、純利益は1億4100万円(同4.4%増)と増収増益を達成。主力冷凍商品である「大阪王将 羽根つき餃子」の新商品を投入、小籠包など他の新商品や既存商品のリニューアルにも積極的に取り組んでおり、外食事業では基幹商品である元祖餃子を全面リニューアル、大阪王将やラーメンなどの各業態で新規出店に積極的に取り組んでいる。

通期は売上高300億9400万円(前期比6.8%増)、営業利益8億8000万円(同14.1%増)、純利益2億8700万円(同33.5%増)と従来予想を据え置いている。

# RIZAP経営改善遅延

15日、RIZAPグループ(2928)がストップ安。19年3月期の連結業績予想を修正、売上収益を2500億円から2309億円(前期比69.5%増)、営業損益を230億円の黒字から33億円の赤字(前期135億4100万円の黒字)へ修正した。過去1年以内に入りました。



企業・事業を中心に経営改善が当初の見

5日、中村超硬(6166)がストップ安、上場来安値を更新した。19年3月期第2四半期累計の連結決算は計画を下回り赤字幅が拡大、特別損失を計上し債務超過に転落した。この要因は、モーターの部品にドワイヤの価格低下、在庫や原材料の減損処理を行った。

中村超硬債務超過  
込みより遅れている。

## 半導体関連総じて安い

### エヌビディア決算期待に届かず

週末16日、東京エレクトロン(8035)、アドバンテック(6857)、SUICO(3436)、SCREENホールディングス(7735)など半導体関連株が総じて安い。前日引け後に決算発表された画像処理半導体

大手エヌビディアの収益見通しが市場の半導体製造装置大手のアプライドマテリアルズも時間外取引で急落しており、米国の関連株安の流れが東京市場にも波及。今後の収益減速も警戒された。

### 今週の動意銘柄

**キラ-T細胞で期待**  
16日、大日本住友製薬(4592)など再生医療関連株の一角が大幅高。京都大学のiPS細胞研究所のチームがiPS細胞を使ってがんへの攻撃力を高めた免疫細胞「キラ-T細胞」を作製したと発表されたことで、新し期待が高まった。

## 大阪万博に期待

先週の東京株式市場は反落しました。NYダウが週前半に続落したことで、上値の重たい中、9月中間決算がほぼ一巡。16日の日本経済新聞の記事によると2019年3月期通期の純利益は前期比1%増と前期の34%増から急激に鈍化と報じています。10月以降の株価下落は、先見性が発揮されたと言えそうです。

ただ、上がり続ける株価がないのと同様に下がり続けることもありません。11月9日時点の売買動向を見ると、海外投資家が現物は2週連続、先物は7週ぶりに買い越しに転じてきました。

今週23日に2025年の万博開催地が決定します。政府試算によると大阪誘致が決定されれば、経済効果は約2兆円としており、インフラだけでなく、次世



代の通信サービスの普及やインバウンドなど幅広い効果が考えられます。押し目買いでしょう。

日々勇太郎

## 転ばぬ先のテクニカル

日本精線  
(5659)

## ナスロンフィルター牽引

2Q金属繊維は19.7%増収

日本精線(5659)はステンレス鋼線のトップメーカーで、ナスロン(金属繊維)などの高機能製品や高合金ワイヤなどの独自製品を供給している。

19年3月期は10月29日に発表された第2四半期累計(4~9月)の連結決算で売上高は199億4100万円(前年同期比7.2%増)、営業利益は21億8400万円(同1.5%減)、純利益は15億5300万円(同0.7%増)だった。減価償却費など固定費の増加や販売関連費用の増加が利益を圧迫しているが、金属繊維部門では、ナスロンフィルターは、ポリエステルフィルム向けに加え、化合繊維向けや高機能樹脂用途についても好調に推移し、前年同期比19.7%の大幅増収を計上。超精密ガスフィルター(ナスクリン)も韓国や

特選銘柄

台湾での半導体メーカーを中心とした設備投資の先送りによる影響はあったものの増収を確保しており、通期予想の売上高410億円(前期比9.5%増)、営業利益42億円(同4.9%増)、純利益29億4000万円(同4.5%増)達成へ向けて順調に推移している。

2020年度(2021年3月期)を目標最終年度とする第14次中期計画(NSR20)では高機能独自製品の上方弾力確保や新製品開発(次世代高機能独自製品の開発など)と新市場開拓、生産性向上と働き方改革などを基本方針に掲げ、2021年3月期に連結売上高460億円を目指す方針だ。

2020年度(2021年3月期)を目標最終年度とする第14次中期計画(NSR20)では高機能独自製品の上方弾力確保や新製品開発(次世代高機能独自製品の開発など)と新市場開拓、生産性向上と働き方改革などを基本方針に掲げ、2021年3月期に連結売上高460億円を目指す方針だ。



売上高460億円目指す

## ～決算情報～

グルメ杵屋

2Q増収営業増益を確保  
レストラン苦戦も機内食や卸売健闘

グルメ杵屋(9850)の19年3月期第2四半期累計の連結決算は、売上高197億2000万円(前年同期比0.6%減)、営業利益3億9400万円(同5.2%増)、最終利益1億5700万円(同25.7%減)で着地した。

主力のレストラン事業は台風など自然災害による休業や人件費高騰などの影響で苦戦したが、インバウンド搭乗客の増加を背景にした機内食の拡大と水産物卸売の健闘で増収営業増益を確保。ただ、前年同期に多額の投資有価証券売却益を計上していたことから、最終段階は減益になった。

通期は売上高407億6000万円(前期比0.7%増)、営業利益6億9200万円(同24.4%増)、最終利益4億4300万円(同46.0%増)と従来見通しを据え置いた。

フジコー

耐熱フィルターなど好調  
エネルギー資材も利益率は改善

フジコー(3515)の19年3月期の第2四半期累計(4~9月)連結決算は売上高41億4400万円(前年同期比5.5%減)、営業損益は4800万円の赤字(前年同期1億2100万円の黒字)、最終損益は100万円の赤字(前年同期1億1700万円の黒字)だった。

東日本大震災の廃棄物処理場向けの土木資材、建装資材、自動車資材の販売が減少しているが、環境資材については、耐熱フィルター、触媒ロフを中心に好調に推移、エネルギー資材も販売は低調に推移しているが、売上総利益率は改善している。

通期は売上高92億円(前期比1.1%増)、営業利益1億5000万円(同55.9%減)、純利益1億8000万円(同36.9%減)と従来見通しを据え置いた。

## 潮流

## 投機筋が都合よく支配

## なぜ米国に225先物が上場？

marKet / bAnk

が10月だ。

CTA(商品投資顧問業者)といった外国人投機家は「円買い・225先物売り」や「円売り・225先物買い」のプログラム売買をHFT(超高速・高頻度)システムを利用して大量に売買を繰り返す。日経平均が取引時間中に大幅に乱高下する原因はヘッジファンドとCTAといった外国人投機筋が存在するからだ。CTAが取引時間中に行う売買取引金額は巨額だ。たった1社で225先物を合計で「売り2万枚・買い2万枚」といった売買を毎日のように行っている。金額にすると売り買い合計で約8800億円にもなる。

CTAの売買はその日限りが大半である。ヘッジファンドの売買も短期決戦だ。このような投機家は業績や成長性などを分析して投資している訳ではない。225先物やTOPIX先物など指数を売買することで利益を稼いでいるのだ。投機筋の売買によって急落させられ、逆に急騰もする。このような状態では到底個人投資家が参加できる余地はない。特に225先物市場においては日本だけで取引されているわけではない。アメリカのシカゴCME市場に225先

ヘッジファンドが日経225先物やTOPIX先物を大量に売って株式市場を暴落させたの

物が上場しているのである。日本の株式市場はアメリカの投機筋に都合よく支配されている。

ヘッジファンドは米シカゴCME市場で日経225先物を簡単に急落させることができる。シカゴで225先

物を急落させると、翌日の日本株式市場はシカゴで急落した225先物の終値でスタートする。ここで重要なのは日本の投資家は急落するまでの過程で売買が出来ないということだ。シカゴ225先物が急落した場合、日本市場では多くの銘柄が売り気配で始まり、寄り付いた値段は既に大幅安となっている。売却の機会を奪われた日本の投資家が損をする仕組みが出来上がっているのである。

このような投機筋を野放しにしている限り、日本の株式市場は魅力が無く、個人投資家は戻ってこない。投機筋が存在している限り日本経済に安定した成長が見込めない。公正な株式市場を構築し個人投資家が安心して参加できる体制を整えることが喫緊の課題である。株式市場の将来が日本の未来を担っている。

潮流銘柄はトップカルチャー(7640)、セブン銀行(8410)、イー・ギャランティ(8771)。



岡山 憲史氏(株式会  
社マーケットバンク代  
表取締役)のプロフイ  
ール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは15.5%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

トップカルチャーの日足チャート



国内投資家の売買機会奪う

# チャートから読む 騰落銘柄

## ディーエヌエー (2432)



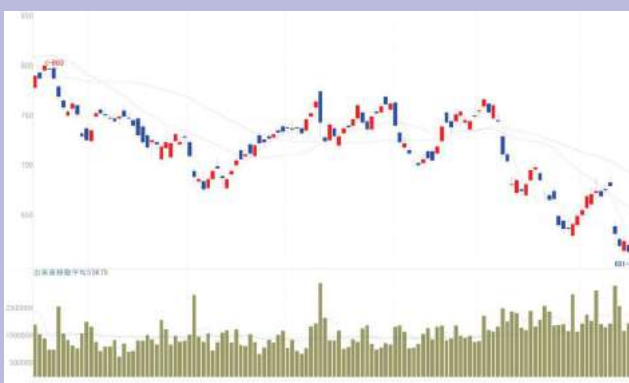
10月30日の安値1817円を底に急伸、11月9日にザラ場で2244円の高値を付けた後も2100円台で底堅い動き。1月までのもみ合いゾーンである2300～2400円までの上昇に期待。

## ソースネクスト (4344)



10月24日に付けた年初来高値1547円から26週移動平均近辺の1000円まで押目を入れ、スピード調整完了。週足は下ヒゲ陽線を引き、反騰体制整う。好業績・好取組みテコに高値抜けから一段高へ。

## シチズン時計 (7762)



11月14日には10月30日の安値626円を下回る610円まで急落。次は2016年11月18日の602円までフシはない。下期計画達成も不安視されており、再度の業績下ブレ懸念も根強い。

## オプトエレ (6664)



12カ月移動平均からの上値乖離が200%を超え、1日に付けた実質最高値1570円で当面の天井感。14日に長い陰線包み足を引き、日足が陰転、13週移動平均が走る1000円近辺への調整も。

※チャートは日足

# 今週の

# 活躍期待銘柄



## 東宝 (9062)

### 今2月期計画上回って推移

東宝(9062)の株価は50日移動平均線を下値支持線として底堅い動きが継続、貸借倍率は0・44倍と拮抗しており、需給面からも時価近辺は注目したい。

19年2月期は第2四半期累計(3~5月)の連結決算で営業収入1329億8400万円(前年同期比4・5%減)、営業利益252億6400万円(同21・7%減)と減収減益となっているが、前年同期に「シン・ゴジラ」と「君の名は。」のパッケージ販売を計上した反動であり、織り込み済み。通期は営業収入を2292億円から2360億円(前期比2・7%減)へ、営業利益を380億円から400億円(同15・9%増)へ上方修正しているうえ、来期以降は「ODZILAG」や「DELTA」の海外大作が貢献する。(と)

### 来期は海外大作が貢献へ



## ハリマ化成G(4410)

### 19年3月期大幅上振れ濃厚

ハリマ化成グループ(4410)は新値更新のあと一呼吸入れているが、切り返しから一段高が期待できるだろう。

19年3月期2Qは計画を上回り、連結経常利益27億3100万円(前年同期比52・5%増)と大幅増益で着地、新製品投入効果や中国製紙用薬品子会社の好調に為替差益も加わり、直近3カ月の7~9月では17億6600万円(同78・6%増)と増益ピッチが加速した。通期予想の45億円(前期比12・3%増)は為替の影響を加味しておらず、2Qの進捗率が60・7%に達することから大幅な上振れが濃厚。

年間配当を34円(前期23円)へ増配の予定で、利回りは3・3%を上回る。

さらに、今月中にも中国山東省の製紙薬品新工場稼働、まずは物流コスト低減が見込め、来期からは本格的な収益貢献が期待される。(さ)

### 配当利回りは3.3%上回る

※チャートは日足

## 日経平均は戻す局面

高野恭壽の  
株式情報 **これでどや!!**

株式市場新聞の名物コーナーが復活!

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

11月第3週の東京市場も波乱の動きとなりました。13日はニューヨーク市場の予想外の急落という冷や水がモロに日経

平均を直撃し、寄り付き段階から400円近い下げとなりました。その後も下落は続き、寄り付きからわずかに20分余りで785円安まで急落。後場に入ると日経平均は戻す動きが強くなり、引けにかけては2万2000円には及びませんが、2万1800円台まで戻し、14日以降も膠着感の強い動きで推移しました。今回の下げはアップル社

## ヤグラ形成のアンジェス

の大口顧客が大量に受注をカットされたことで、iPhoneの先行き需要の低迷懸念が再度高まったことが挙げられます。ただ、これについてはアップル社が販売台数の公表を今後行わないことを発表済みであること、タブレットやPCの比重を高める戦略を打ち出していることを考慮すれば、改めて売り材料にする問題でもありません。原油価格の安値更新やイタリアの財政悪化など不安材料が重なったことで様子見気分が強まり、真空地帯を下げてしまった訳であり、10月の暴落相場時のように過度に不安視する必要はないと思っております。その後、東京市場は落ち着きをとり戻していることや円安基調が維持されていることから、日経平均も戻す可能性の方が高いと判断できます。

当欄一貫推奨のアンジェス(4563)は先の安値391円を割らずに反発に転じ、一気に450円を超えるところまで反発しました。この陽線は10月29日の陰線と対象的になります。こういうチャートをヤグラと呼びます。底値圏で形成されずとしばらく上値を追うという縁起の良いチャートです。恐らく500円手前までの戻りを見込めるのではないかとみていますので反撃開始です。アップルショックで売られていた村田製作所(6981)、ローム(6963)などは見直されると見えます。好決算ながら買われていないアイフル(8515)も300円トビ台は魅力があり、日本冶金工業(5480)も改め

て注目されるでしょう。

高野恭壽公式ホームページ

高野恭壽の株式市場情報  
これでどや!!

<https://marketpress.jp/kabu-takano/>

毎日情報を配信中!

アンジェスの  
日足チャート



村田製作所  
の日足チャート





# 星野三太郎の 株街往来

～ビールから  
チューハイへ～

を見かけることも増えている。

犬の散歩を見て平和を感じる半面、周囲から戦友がいなくなつて、今では家に帰つてからビールを飲みながらBSで懐かしの時代劇や旅行番組を見るのが楽しみになつた。そのビールも近所の方からアルコール度数9%の柑橘系チューハイを頂いてから、リンゴや桃など色んなものを1缶ずつ買うようになった。第2四半期決算でもビール大手はチューハイ系飲料の伸びが目立っていたから、筆者と同じようなユーザーが増えているのだろう。ただ、醸造技術が必要なビールと違って製造が簡単なのか、スーパリーの棚を見ていると清涼飲料会社など様々なブランドを見る。9%で酔うのも早いから、ビールよりは購入本数が少なくない。わいわいがやがやで飲む方が楽しいが、ビール会社の決算からは、寂しさを感じてしまう。



年末に向けて忘年会の案内は増えているものの、懇意にしていた証券ディーラーが辞めてしまったこともあり、普段は飲みに行く機会が減ってしまった。株の街だった北浜は今ではマンションが建ち並んでおり、早朝になれば中之島あたりで犬の散歩

## New product

### グルメ杵屋 限定商品「冬のおすすめ」 おらが蕎麦、そじ坊などで販売中

限定商品の「冬のおすすめ」



グルメ杵屋(9850)は「冬のおすすめ」として「おらが蕎麦」、「そじ坊」などの店舗で期間限定商品の販売を行っている。「おらが蕎麦」ではジューシーな鶏天が載ったボリューム満点のおそば「冷し鶏天そば」(税抜630円、特盛871円)と

「ロースポーク丼定食」(同908円)、「豚肉そば 柚子こしょう味」(同602円)を販売。「そじ坊」、「そば野」、「結月庵」の3店では「冬定食極」として、北海道産帆立貝柱を使用した「帆立(貝柱)ちらしご飯定食」(同871円)と日本海産紅ズワイ蟹を使用した「蟹(紅ズワイ)ちらしご飯定食」(同871円)、「牡蠣もちそば定食」(同889円、単品788円)、「けんちんそば定食」(同843円、単品741円)を販売している。

### 大和ハウス “働き方改革”を提案 「移動現場事務所」の新型モデル発売



“移動するオフィス”で働き方改革

大和ハウス工業(1925)グループの大和リースは、車両内に事務所機能を搭載した「移動現場事務所」の新型モデルを11月9日から販売を開始した。

「移動現場事務所」は業務の効率化と労働時間の短縮を目指し、2016年より順次、自社の支店・営業所18カ所に導入している。移動先で事務処理が行えるため、会社へ戻るための移動時間が削減可能で「業務の効率化」と「労働時間の短縮」に貢献、現場に事務所を建てる場所がない工事現場にも有効であることが魅力。新型モデルでは実際に車両を使用した社員にアンケートを実施し、要望が多かったポイントを改良している。

敏腕先物トレーラー

# ハチロクの裏話

現するチャートである。ファンダメンタルから

## 「鯨幕相場」つづくか？ 戻り売りの突っ込み買戻し

先週の日経平均は8日の  
戻り高値(2万2549円  
24銭)から  
13日の安値  
(2万1484円65銭)  
まで約106  
4円下げたが、  
翌日には2万  
2000円近  
くまで戻し、  
その後揉み合  
う展開となっ  
た。特徴的な  
のは11月に  
入ってプラス  
とマイナスが交互に現れる  
「鯨幕相場」になっている  
ことである。大きく下げて  
も翌日にはある程度戻す、  
でもその翌日には再度売ら  
れるというパターンである。  
「鯨幕相場」は方向感が  
ないときにしやすいチャー  
トであるが先物の日足を見  
ても水、木、金と上髭下髭  
を大きく残す「駒」の形状  
となっている。この「駒」  
の出現はやはり相場の強弱  
感が対立しているときに

先週の日経平均の現  
在水準はPERで1  
2.26倍とかなり  
割安に放置されてい  
るが、英国のEU離  
脱問題、米中の貿易  
戦争問題、原油安問  
題など相場に影響を  
与える問題が山積し  
ており、投資家が強  
気にならないのも理  
解できよう。

今週も戻りは重たそう  
である。チャートのみると  
10月2日の高値2万44  
80円を起点とする上値抵  
抗ラインは現在2万220  
0円処に位置する。先週は  
2万1900円台に入れば  
売られる状況であったた  
めに、まずは終わり値で2  
2000円に乗せてくれれば  
戻り相場は期待できよう。  
一方、下値は13日の安値  
(2万1470円)を維持

下げに拍車がかかる可  
能性もあり、下げ相場の勢  
いにも注意が必要である。「鯨  
幕相場」が続くかどうかは  
わからぬが、上記の上値  
抵抗ラインを抜いてくるま  
では「戻り売りの突っ込み  
買戻し」の戦略が  
パフォ  
マン  
ス  
が  
良  
い  
と  
思  
わ  
れ  
る。  
(ハチロク)

パフォ  
マン  
ス  
が  
良  
い  
と  
思  
わ  
れ  
る。  
(ハチロク)

日経225先物日足チャート



### 今週のスケジュール

- ・16日 米10月鉱工業生産・設備稼働率 (23:15)
- ・19日 10月貿易統計(8:50)
- ・20日 米10月住宅着工件数(22:30)
- ・21日 9月全産業活動指数(13:30)  
10月訪日外客数  
米10月耐久財受注(22:30)  
米10月CB景気先行総合指数、米  
10月中古住宅販売件数  
(22日0:00)
- ・22日 10月消費者物価指数(8:30)
- ・23日 勤労感謝の日  
博覧会国際事務局(BIE)総会で  
大阪が立候補している25年万博  
の開催国が決定  
米ブラックフライデー

### 編集後記

携帯電話料金高止の一因として一定の契約期間を条件に端末の代金や通信料金を割り引く「4年縛り」や「2年縛り」が問題視されている。端末の流通を増やして、買い替え需要に因るために必要というが、通信大手にとって都合よすぎる仕組みではないだろうか？ 解約金が携帯会社の切り替えを難しくし、競争原理が働きにくいので、結果として通信料金は下がらない。高額端末購入にはメリットがあるだろうが、低額ユニットが割を食っている。もっと期間縛りのないプランを充実するべきだろう。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。